

各位

2026年 3月 6日

日本老人福祉財団

『第24回〈ゆうゆうの里〉職員実践研究発表会』開催

高齢者介護の最前線で働く職員の“リアル”な課題共有と解決の研究発表会

介護付有料老人ホーム(ゆうゆうの里)を全国7箇所で運営する一般財団法人日本老人福祉財団(本部:東京都中央区、理事長:夏目芳宏)では、全施設及び本部すべての部門で取り組んでいる「課題研究」を共有し、解決を図る目的で『〈ゆうゆうの里〉職員実践研究発表会』を、令和8年2月19日(木)に日本橋公会堂にて開催いたしました。

事務、食事、介護、医療の全部門から20演題の取り組みを発表しました。今回は、業務のデジタル化やピクトグラムケアなどの生産性向上の取り組みやフレイル予防の取り組みなど、入居時自立型有料老人ホームならではの発表が多くありました。当日の参加者は総勢128名。



【会場の様子】



【表彰式での記念撮影】

【優秀賞】(4演題)

- 食堂で仲間と楽しく語りながら食事を ～コロナ禍前の明るい食堂を取り戻せ！～
伊豆高原〈ゆうゆうの里〉食堂で「仲間と楽しく」食事をいただくプロジェクト 大塚直義
- カタチは言葉より速く届く ～ピクトグラムケア始めました～
佐倉〈ゆうゆうの里〉ケアサービス課 原育実
- ケアセンター入居者の適切な睡眠は？ ～個別のアプローチと日中の過ごし方の検討～
佐倉〈ゆうゆうの里〉ケアサービス課 京増彩水
- 細かすぎる小銭との闘い ～小銭削減による手数料削減とキャッシュレス推進～
湯河原〈ゆうゆうの里〉事務管理課 野崎直子

【会場賞】(1演題)

- 美味しいパン粥召し上がれ！ ～パン粥の改良による入居者満足度の向上を目指して～
浜松〈ゆうゆうの里〉食事サービス課 植村友奈

優秀賞受賞演題概要について

● 食堂で仲間と楽しく語りながら食事を ～コロナ禍前の明るい食堂を取り戻せ！～

概要：新型コロナウイルス対策で習慣化した「黙食」により、食堂での入居者間の交流が失われ、フレイルリスクが増加。この状況を改善するため、食事を通じた交流を促進し、フレイル予防とコミュニティ活性化に繋がる取り組みを実施。食事を持ち帰るご入居者へ聞き取り調査、食堂のテーブル利用状況調査、イベントの実施等を行った。結果、食堂で語り合いながら食事をする入居者は朝昼夕の3食で1日平均10.7組、24名だったところ半年後には、1日平均22組、58名まで増加。また、食堂の喫食率も増加した。



伊豆高原施設 大塚直義さん

● カタチは言葉より速く届く ～ピクトグラムケア始めました～

概要：誰にでも直感的に理解できる「ピクトグラム」を創り出し、活用することで介護事故の予防につなげることを目的とした研究。「現場発想で行う」というコンセプトのもと、介護現場でよく発生するミスや事故を抽出し、その場面で役に立つピクトグラムを作成・掲示。導入前後での事故件数やヒヤリ・ハット、職員アンケートを比較した。結果、ヒヤリ・ハットや事故件数は減少し、職員からも「業務が円滑になった」「注意点を即座に理解できるようになった」という意見があった。



佐倉施設 原育実さん

● ケアセンター入居者の適切な睡眠は？

～個別のアプローチと日中の過ごし方の検討～

概要：十分な睡眠が得られていない可能性があるご入居者の状況を改善すべく、睡眠の質向上を目指すことを目的とした研究。睡眠に課題がある方への「個別プラン」やご入居者全員の睡眠の質向上を目指した「睡眠導入活動（ナイトプログラム）」を実施。トーテックアメニティ株式会社の「見守りライフ」を使用し、睡眠を数値で比較。結果、厚生労働省の示す高齢者の理想的な睡眠時間（8時間）は、実施前から確保されていたことが分かった。実施後には全体の離床回数が減少し、睡眠の質が向上した。



● 細かすぎる小銭との闘い ～小銭削減による手数料削減とキャッシュレス推進～

概要：毎月500枚の小銭増加に対し、年間2万円以上の手数料負担を避けるため、経理担当者として小銭削減に取り組むことを目的とした研究。仮払い精算による小銭の戻り、行事販売での現金売上が主な要因と判明。仮払いや施設行事をキャッシュレス化、小銭の意図的な支出、小銭調整の見える化を実施。結果、毎月約500枚増加していた小銭が約300枚に減少。行事での完全キャッシュレス化と伝票化を達成し、副次的効果として正確な売上管理が可能になった。また、小銭調整で保有枚数が安定し、有料の小銭預け入れを年3回に抑え、手数料が当初想定9割削減見込みとなった。



湯河原施設 野崎直子さん

研究発表の講評について

- 午前の部

淑徳大学 総合福祉学部 准教授 佐藤 惟氏

福祉・介護の厳しい現場において、日常業務で多忙な中、このような研究発表を準備されたことに敬意を表します。先行研究の確認や外部事例への着目、アンケート等のデータ収集や目標との比較といった視点は、研究を深める上で重要な要素であると感じました。入居者と職員がともに参加する発表の場は大変貴重であり、今後も継続した取り組みを期待しております。



- 午後の部

帝京平成大学 人文社会学部 教授 森川 洋氏

本発表会が長年継続されていることに敬意を表するとともに、忙しい業務の中で実践を振り返り言語化し発表されている点は大変意義深いものだと感じました。評価は優劣をつけるだけでなく、次の実践につなげる視点も重要であり、今回の成果を今後の取り組みに活かしていただければと思います。入居者も参加する開かれた発表会として、今後の発展を期待しております。



参考：当日プログラム

<第1群> 座長：湯河原(ゆうゆうの里)ケアサービス課 課長 石田正明

1	『やりたい』から踏み出す一歩を ～いきいきとした生きがいの支援のために～	浜松(ゆうゆうの里) 生活サービス課 梨子田幸代
2	しおりで繋ぐバトン！ ～図書室魅力化計画 その後のキセキ～	神戸(ゆうゆうの里) 生活サービス課 平谷知世
3	歩いて、鍛えて、フレイル予防！ ～気軽にできる運動プログラムの提案～	湯河原(ゆうゆうの里) 生活サービス課 関浩平
4	食堂で仲間と楽しく語りながら食事を ～コロナ禍前の明るい食堂を取り戻せ！～	伊豆高原(ゆうゆうの里) 生活サービス課 大塚直義
5	カタチは言葉より速く届く ～ピクトグラムケア始めました～	佐倉(ゆうゆうの里) ケアサービス課 原育実

<第2群> 座長：神戸(ゆうゆうの里)生活サービス課 課長 中川弘隆

6	新卒採用の取り組み ～採用1件をとるために～	伊豆高原(ゆうゆうの里) 事務管理課 先崎遥翔
7	楽しみを見つける冊子づくり	湯河原(ゆうゆうの里) 生活サービス課コミュニティ 宇留野勝彦
8	「入居者満足と新入居者ソフトランディング」 ～源氏物語 お花いっぱいプロジェクト～	京都(ゆうゆうの里) 事務管理課 安田圭吾
9	介護予防の新しい形 ～『みんなのフィットネス』サークルの創造～	佐倉(ゆうゆうの里) 生活サービス課 齋木浩一
10	動けば変わる！入居者の笑顔を引き出すアスレチックジムの力 ～大阪(ゆうゆうの里)における新たな運動支援の取り組み～	大阪(ゆうゆうの里) 生活サービス課 上前香里

<第3群> 座長：佐倉(ゆうゆうの里)生活サービス課 課長 塚本彩子

11	水分補給の見直し ～AIを用いた水分摂取量の数値化～	神戸(ゆうゆうの里) ケアサービス課 福田信
12	美味しいパン粥召し上がれ！ ～パン粥の改良による入居者満足度の向上を目指して～	浜松(ゆうゆうの里) 食事サービス課 植村友奈
13	ケアセンター入居者の適切な睡眠は？ ～個別のアプローチと日中の過ごし方の検討～	佐倉(ゆうゆうの里) ケアサービス課 京増彩水
14	スキントラブルをなくしたい ～私達にできること～	大阪(ゆうゆうの里) 生活サービス課 中谷真梨
15	リーダー業務の偏りをなくす・続編 ～協力しやすい環境づくりを目指して～	伊豆高原(ゆうゆうの里) ケアサービス課 鈴木里実

<第4群> 座長：京都(ゆうゆうの里)事務管理課 課長 石寄裕一

16	システムの清掃活動 ～情報機器・ソフトウェアライセンス数の最適化～	本部 経営企画部 企画課 緒方秀和
17	細かすぎる小銭との闘い ～小銭削減による手数料削減とキャッシュレス推進～	湯河原(ゆうゆうの里) 事務管理課 野崎直子
18	『売店に着目した業務効率化』 ～より良いコミュニティの為に～	京都(ゆうゆうの里) 生活サービス課コミュニティ 八木夕宇
19	食札の統一化 ～温かいものを温かいまま提供するために～	大阪(ゆうゆうの里) 生活サービス課 山森一輝
20	「その人らしさ」を大切にケアを目指して ～「入居者個人ファイルをきれいにしたい！」からスタートした健康情報の整理～	浜松(ゆうゆうの里) 医務課 鈴木真彩

■日本老人福祉財団のなりたち

日本老人福祉財団は、1970年代初頭の高度経済成長期のなかでいち早く将来の「日本社会の高齢化」を見据えて、特に日本経済の高度成長による労働人口の都市への集中がもたらす「核家族化」現象により、一人暮らしの老人の増加などの高齢期における経済上、生活上、肉体的・精神的健康の問題に立ち向かうべく、1973年に設立いたしました。

■日本老人福祉財団の基本理念

—豊かな福祉社会の実現を目指して—
私達は、老後の“安心”と“幸せ”を提供することにより社会へ貢献します。
私達は、はたらく人達の“人間性”を大切にします。

『ケア・スピリット』
私にとって、あなたはとても大切な人です。

■組織概要

財団名：一般財団法人 日本老人福祉財団

理事長：夏目 芳宏

設立：1973（昭和48）年

事業：介護付有料老人ホーム〈ゆうゆうの里〉を全国7箇所で開催
（佐倉、湯河原、伊豆高原、浜松、京都、大阪、神戸）

特徴：創立53年目を迎えた老舗の有料老人ホーム運営事業者
自立の時期に入居し最期まで暮らせる住まい（終の棲家）を提供

1施設あたり平均300戸を超える大型施設のCCRC「高齢者コミュニティ」を展開している

H P：<https://jscwo.jp/>

本件に関する報道関係者からのお問い合わせ先
一般財団法人 日本老人福祉財団 本部 サービス推進課
Tel. 03-3662-3611